



# フォーサイド グループ 2020年12月期 決算説明資料

補足説明資料



# - 目 次 -

- 2020年12月期の業績概要 … 3ページ ～ 8ページ
- 既存事業の活動展開状況 … 9ページ ～ 15ページ
- 2021年12月期の展開方針 … 16ページ ～ 18ページ
- 2021年12月期の業績見通し … 19ページ ～ 21ページ
- 参考資料（グループ概要） … 22ページ ～ 24ページ



## 2020年12月期の業績概要

# 2020年12月期 連結業績ハイライト

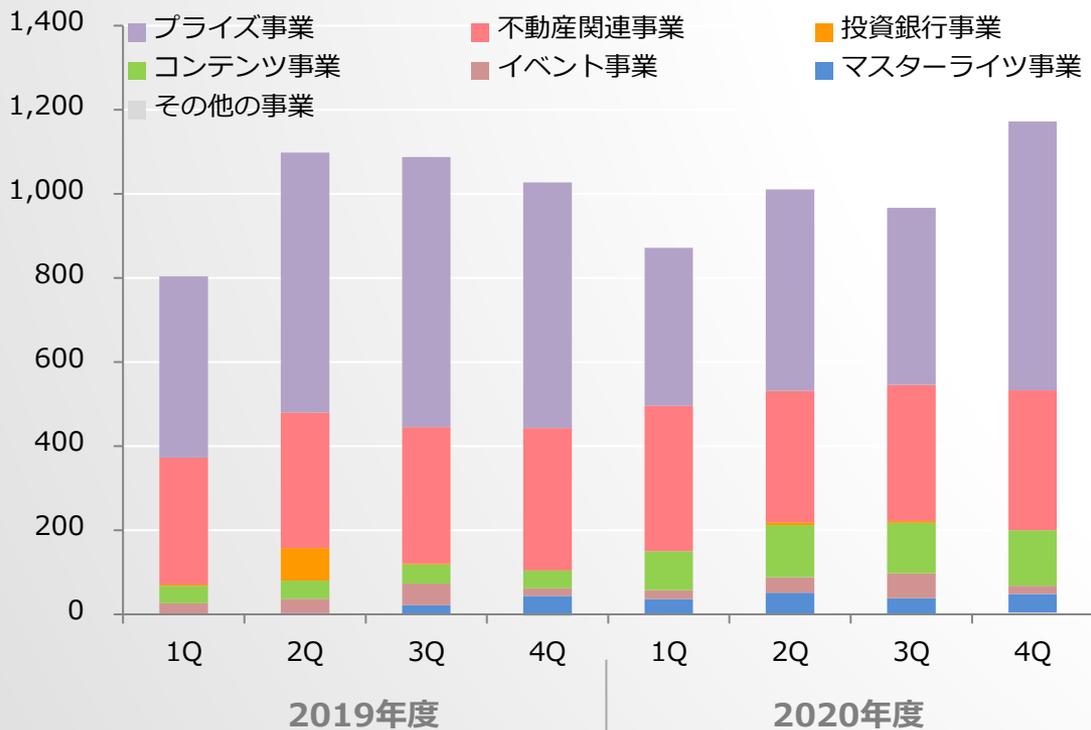
(単位：百万円)

	2019年度 通期	2020年度 通期	前年比	主な増減要因・傾向
営業収益	4,040	4,033	99.8%	2020年12月期においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、大幅な営業活動の自粛を余儀なくされ、事業によって成績の明暗が分かれる形となった。
営業総利益	1,786	1,678	93.9%	不動産関連事業は、民法改正を追い風に底堅く推移した一方、プライズ事業は販売先の休業に伴う出荷遅延や慎重な購買動向が続いたことで減収となった。その結果、グループ全体の営業収益は前年比99.8%、営業総利益93.9%の減収減益となった。
販売管理費	1,863	1,783	95.7%	
営業利益	△77	△105	—	利益については、営業収益の減少にくわえ、投資銀行事業における案件成約数が著しく減少したこと等により、営業損益は105百万円の営業損失となった。
経常利益	△47	△49	—	また、固定資産及びのれんの減損損失、貸倒引当金繰入額並びに投資有価証券評価損等302,863千円を特別損失として計上したこと等により、親会社株主に帰属する当期純損益は348百万円の純損失を計上し、利益の確保には至らなかった。
親会社株主に帰属する 当期純利益	△156	△348	—	

営業収益は昨年を維持するも、営業損益・当期純損益ともに赤字幅が拡大

# 営業収益の成長推移

(単位：百万円)



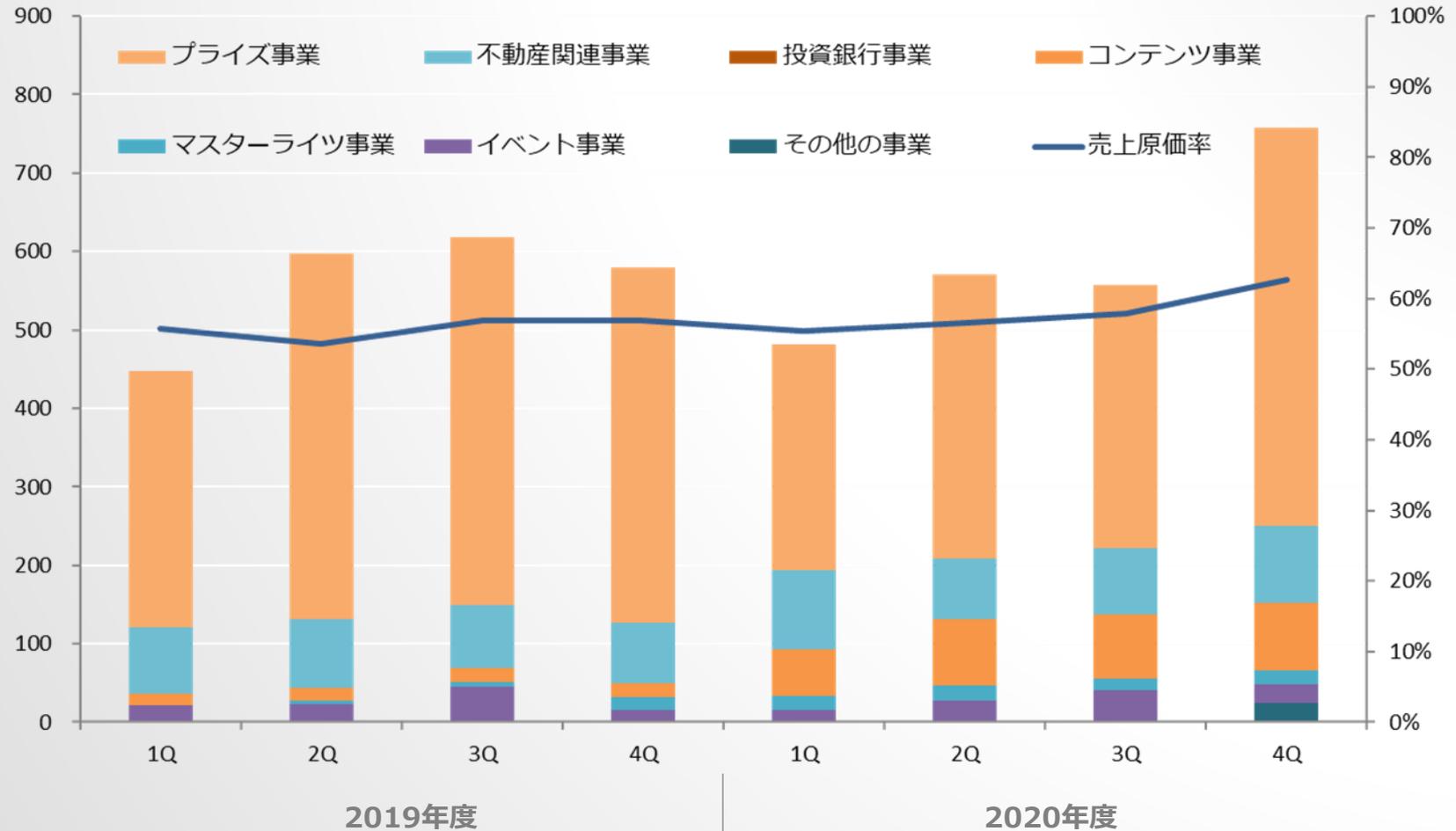
不動産関連事業は年間を通して堅調に推移  
 プライズ事業は2020年4Qが昨年水準まで大幅に回復

## セグメント別の主な増減要因

<b>プライズ事業</b>	プライズ事業では、コロナ禍での休業や営業時間短縮により、取引先の慎重な購買動向が続いたことで、売上高、セグメント利益ともに、前年の水準を大きく下回って推移。
<b>不動産関連事業</b>	不動産関連事業では、2020年4月の民法改正が追い風となり、売上高は前年の水準を上回って堅調に推移。また、コロナ禍での家賃滞納者の増加が懸念されたが、公的支援制度の整備、拡充が進み、延滞債権が減少したこと等で、セグメント利益は大幅増益を達成。
<b>投資銀行事業</b>	投資銀行事業では、景気後退懸念や将来の不透明感がM&A市場に及ぼす影響は大きく、案件の成約件数、成約金額ともに著しく減少。セグメント利益は大幅赤字に。
<b>コンテンツ事業</b>	コンテンツ事業では、電子書籍の販売が年間を通して堅調に推移。映像制作事業では、制作案件の延期や中止が余儀なくされたほか、制作コストの高止まりが改善されず、事業全体では減益になるものの、セグメント利益は確保。
<b>マスターライセンス事業</b>	マスターライセンス事業では、音楽事業でのオンラインでの販売や活動を強化。2020年9月以降は、観客動員数を抑えライブ活動も再開。出版事業では、女子小中学生向け雑誌 Cuugal (キューガル) において、誌面撮影を行うことができず、2020年8月号を休刊するも翌号から復刊。売上、セグメント利益ともに、前年の水準を大きく上回って推移するものの、セグメント利益を確保するまでには至らず。
<b>イベント事業</b>	イベント事業では、イベントの多くが中止や延期に。2020年9月以降は、来場者数を制限し、開催されるケースも増えるが、当初の売上見込みには届かず。一方で、OEM物販が好調に推移したことで、売上高は前年の水準を上回るも、セグメント利益を確保するまでには至らず。
<b>その他の事業</b>	金融事業では、延滞債権の回収に注力し、貸付金の回収を図ったことで、セグメント利益を確保。

# 原価の推移

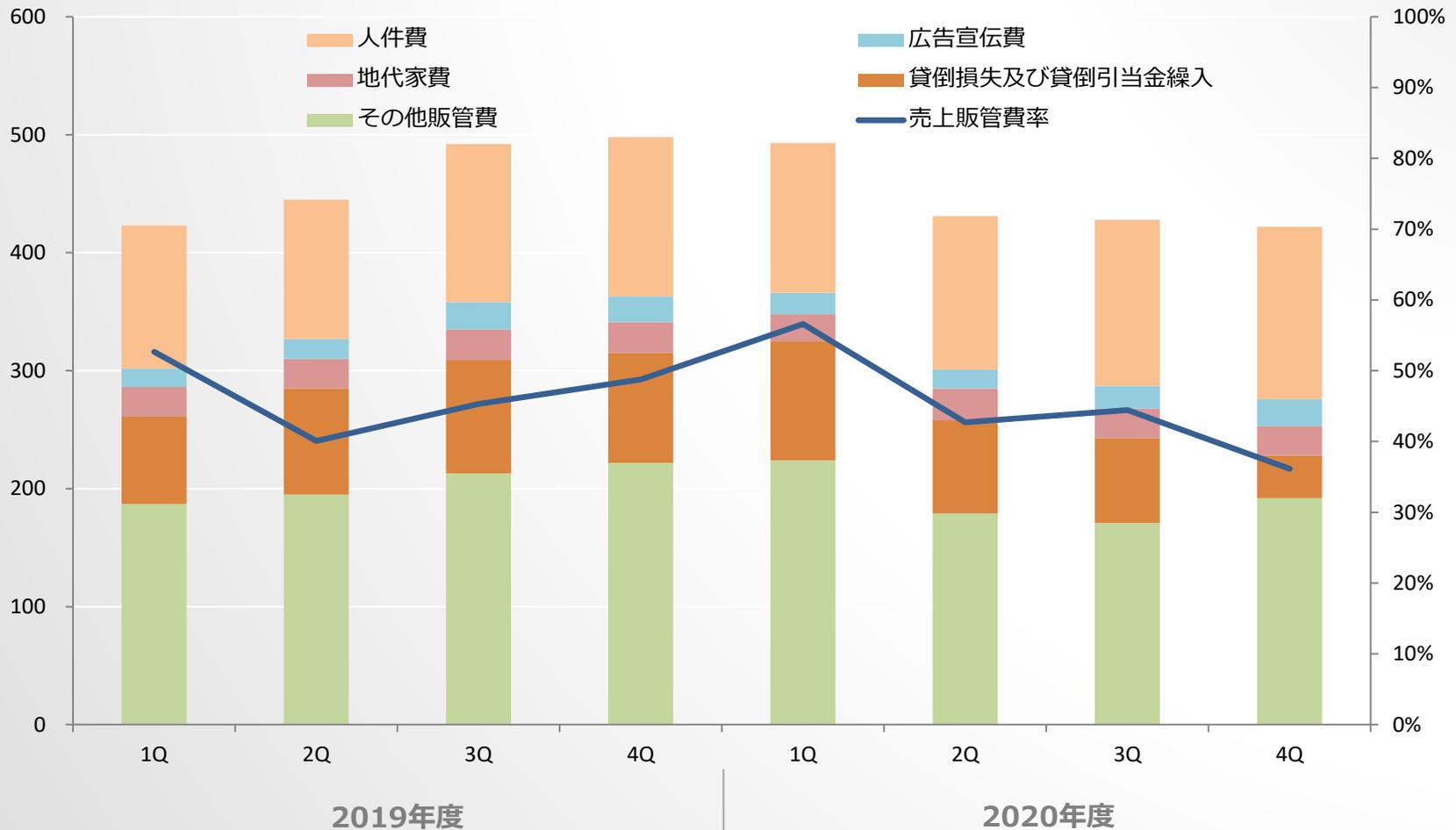
(単位：百万円)



映像事業のグループインにより、売上連動原価が増加  
各事業において継続的なコストコントロールを実施

# 販売管理費の推移

(単位：百万円)



不動産関連事業での貸倒引当金繰入額が大幅に減少  
グループ全体でも昨年比4.3%の減少となり、コスト削減に成功

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度	増減金額	主な増減要因・傾向
資産	3,687	3,841	153	資産については、現金及び預金の増加580百万円、のれんの減少170百万円、投資有価証券の減少188百万円等により、前年度末に比べ153百万円の増加となった。
負債	2,262	2,746	483	負債については、未払金の増加154百万円、長期借入金金の増加388百万円等により、前年度末に比べ483百万円の増加となった。
純資産	1,425	1,095	△330	純資産については、その他有価証券評価差額金の増加24百万円、親会社株主に帰属する当期純損失348百万円等を計上したことにより、前年度末に比べ330百万円の減少となった。

(注) 2021年2月12日現在、発行済株式総数は32,557,704株、資本金は1,432百万円、資本剰余金は1,973百万円です。

金融機関からの借入により、手元流動性は十分に確保  
 当期純損失の計上により、純資産が大幅に減少



## 主力事業の活動展開状況

# プライズ事業の展開



人気キャラクターを多く取り扱うも、コロナ禍での慎重な購買動向が改善されず  
売上高、セグメント利益ともに減収減益

# 不動産事業の展開



「滞納報告プラン」

57,954件⇒

**58,610件**

入居者様の家賃支払い滞納が発生した場合、オーナー様からの報告を受けた時点で、オーナー様又は管理会社様へ代位弁済するサービスプランを提供。



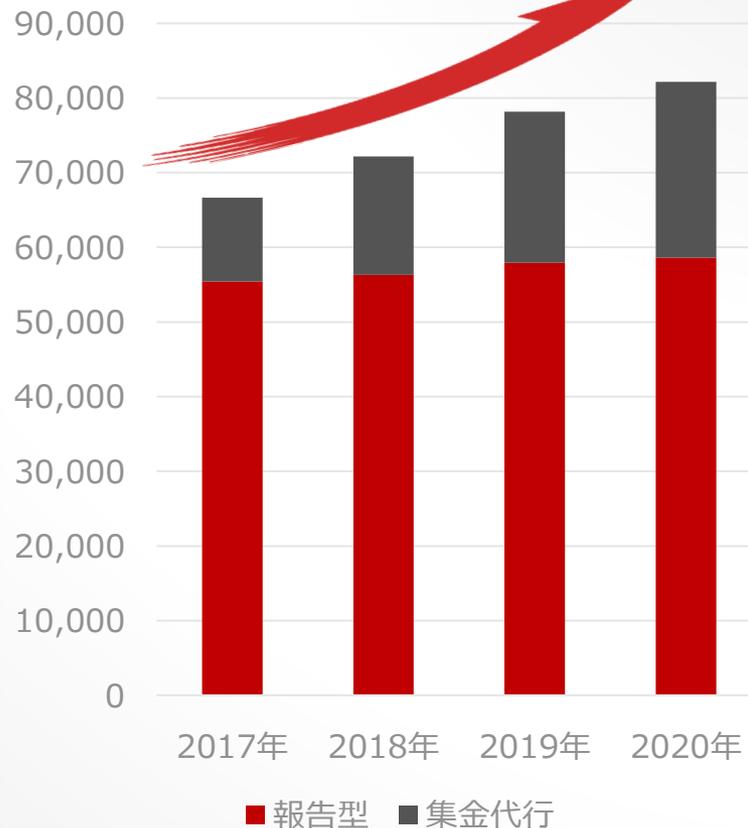
「集金代行プラン」

20,235件⇒

**23,565件**

金融機関と提携し賃料の集金を代行。不動産オーナー様にとって、確実な賃料収入の保証と、業務の効率UPが見込めるサービスプランを提供。

## 保証債務件数の成長推移



新規契約件数及び保証債務残高は堅調に推移  
立替家賃の回収実績が向上したことで、大幅な増益を達成

# 投資銀行事業の展開



The graphic features a dark blue background with a blurred office scene. On the left, a dark blue box contains the text 'SERVICE' above a white icon of a classical building. Below this is the title '投資銀行事業' and a paragraph of Japanese text. A button labeled '→ お問い合わせ' is positioned at the bottom of this box. To the right, four white circular icons are arranged in a 2x2 grid, each with a label below it: 'M&A' (handshake), '資金調達' (hand holding a coin), '投資' (stack of money), and 'ファイナンス' (bar chart with a coin).

SERVICE

投資銀行事業

投資銀行事業では、M&A／資金調達／その他金融アドバイスサービスも提供し、戦略的な企業価値向上に向けたトータルサービスを提供しています。

→ お問い合わせ

M&A

資金調達

投資

ファイナンス

景気後退懸念や将来の不透明感がM&A市場に及ぼす影響は大きく  
案件の成約件数、成約金額ともに著しく減少 進行案件の2021年度での成約を目指す



## 2021年12月期の展開方針

# 【主力事業における収益力の一層の強化】

主力事業である「プライズ事業」「不動産関連事業」「投資銀行事業」において、以下の施策を実施・継続することで、2021年度の企業収益力の向上を図ってまいります。

## 【プライズ事業】

取り扱い商品について、これまで以上に柔軟且つ機敏に対応をし、消費者のニーズを掴んだ商品製作や商品選定を実現できるよう努めてまいります。これらの実現が、他社との差別化につながり、既存販売先からの受注拡大や新たな販売先の創出につながるものと考えています。

## 【不動産関連事業】

電子入居申込システムを採用する等、コロナ禍においても代理店が利用しやすい環境を作ることで、新規申込数の増加につなげてまいります。また、家賃滞納者を抑えることが最重要課題のひとつという認識のもと、審査の厳格化や回収業務のさらなる人材確保に取り組んでまいります。

## 【投資銀行事業】

クライアントの要望に添った提案を続けることが、案件成約につながるものと考え、これまでに築いた独自のルートを最大限に活用し、案件成約を実現してまいります。

# 【事業領域の拡大に向けた取り組み】



BLACKNAZARENE

## 【音楽関連事業】

コロナ禍での新たな取り組みである“オンラインでの活動”に注力



## 【出版事業】

女子小中学生向けファッション誌「Cuugal」の販売  
Cuugal モデルを起用したyoutubeチャンネルの運営  
を行い、購買層に向けた媒体認知度の向上に注力



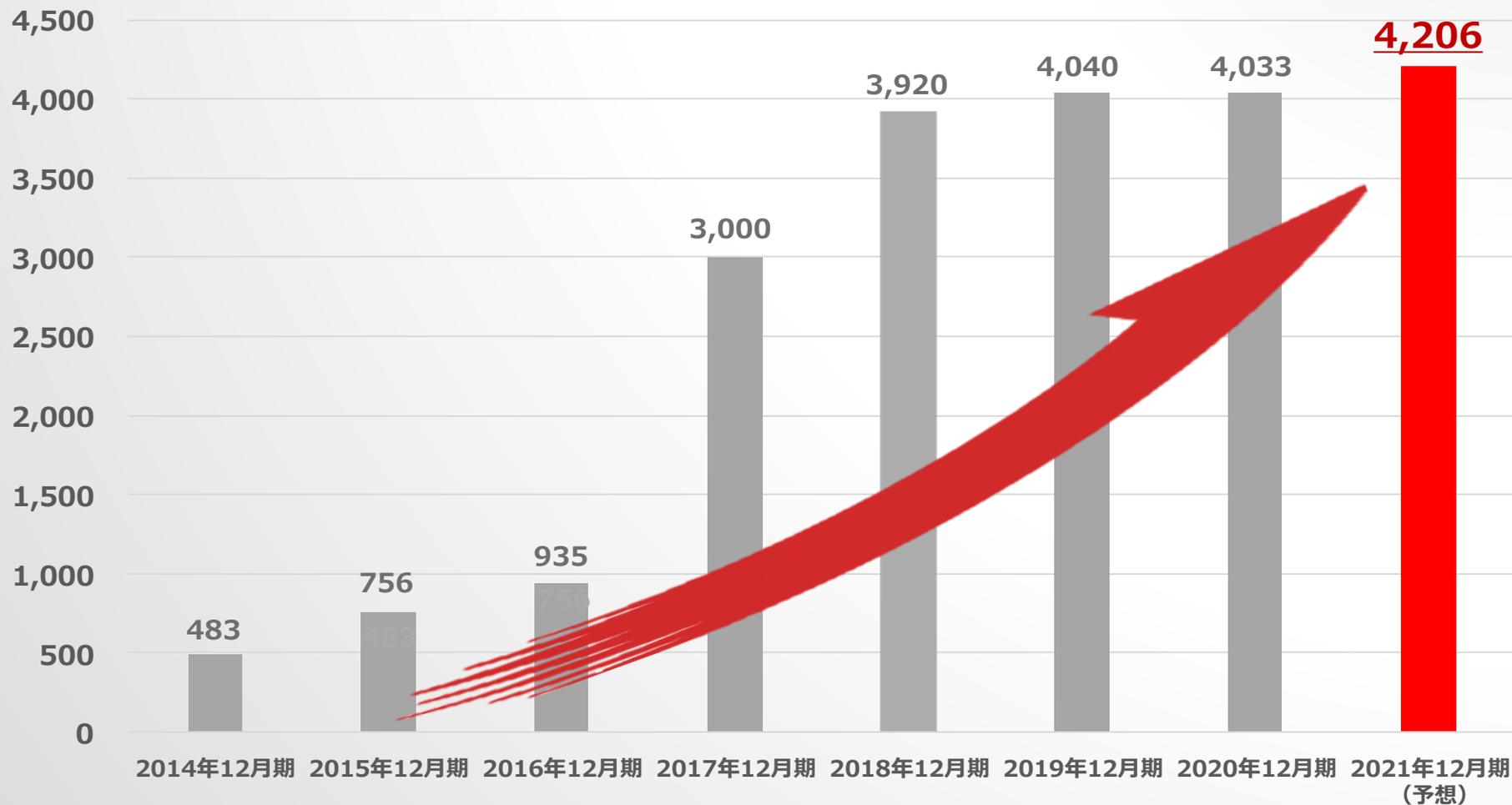
## 2021年12月期の業績見通し

# 連結営業収益（通期予想）

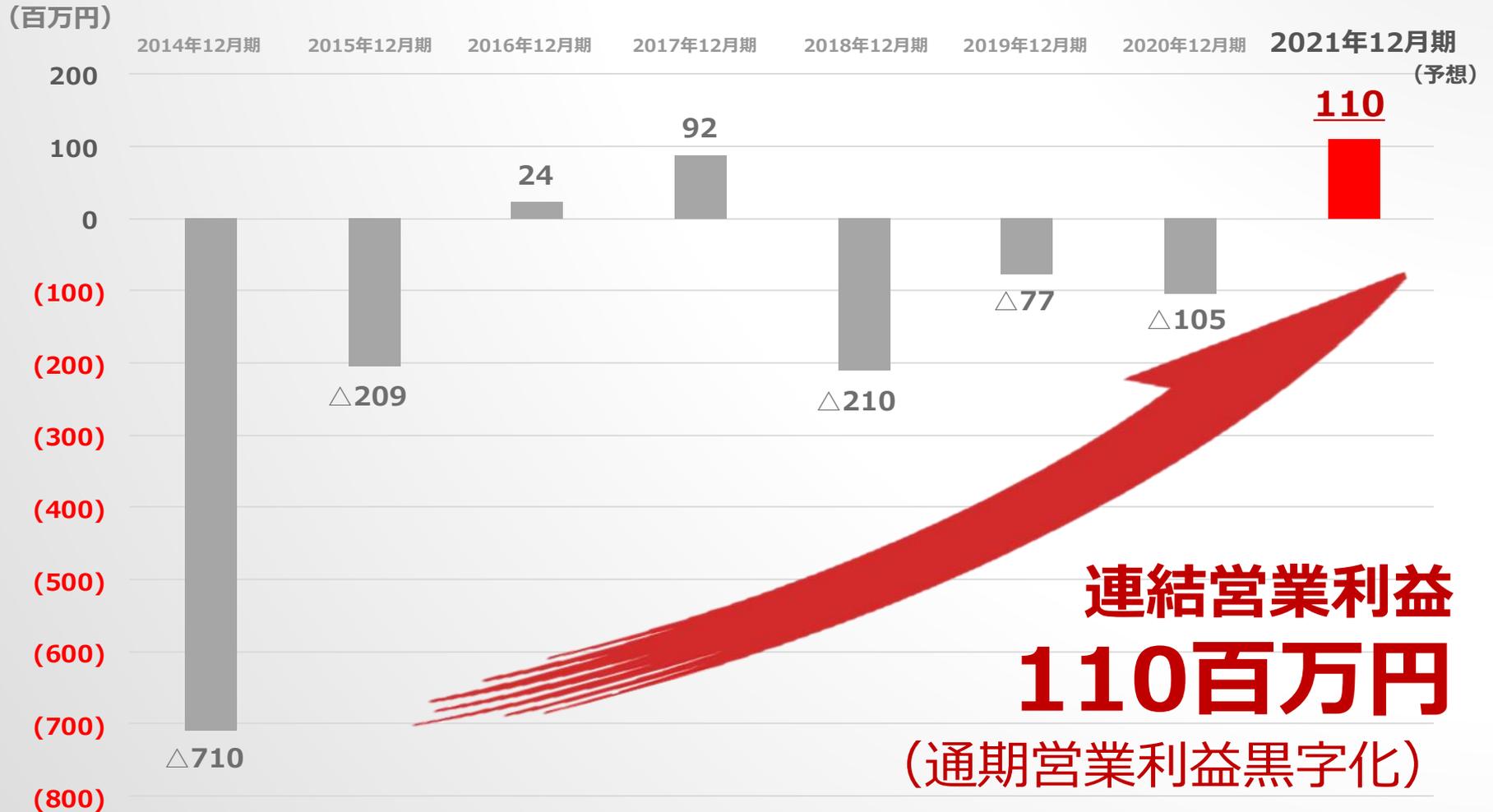
## 連結営業収益 4 2億6百万円

（前年比4.2%増）

（単位：百万円）



# 連結営業利益（通期予想）





## 参考資料（グループ概要）

# フォーサイドグループ概要

会社名

株式会社フォーサイド (持株会社)



所在地

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町三丁目3番1号 E.T.S.室町ビル8階

設立日

2000年3月31日 (2002年10月10日 JASDAQ上場 証券コード2330)

資本金

1,432,534,136円 (発行済株式総数32,557,704株)

経営陣

代表取締役 根津 孝規 取締役会長 泉 信彦 常務取締役 飯田 潔  
取締役 吉田 生喜 取締役 濱田卓二郎  
常勤監査役 法木 右近 監査役 田辺 一男 監査役 瀬山 剛

顧問

法律顧問 TMI総合法律事務所

事業

- ・株式等の保有を通じたグループ企業の統括及び管理等
- ・投資銀行業務

主な子会社

- ・(株)ブレイク：プライズゲーム用景品の企画・制作・販売/イベント企画・運営
- ・日本賃貸住宅保証機構(株)：賃貸家賃保証/不動産仲介売買/賃貸管理事業
- ・(株)モビぶっく：電子書籍配信事業/スマートフォンアプリ配信事業
- ・フォーサイドフィナンシャルサービス(株)：M&Aのアドバイザー業務
- ・(株)マーベラスアーク：音楽関連事業
- ・フォーサイドメディア(株)：出版事業、映像制作事業



—免責事項について—

本資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは本資料の作成時点において入手可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらには様々なリスク及び不確実性が内在しております。実際の業績はかかるリスク及び不確実性により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。かかるリスク及び不確実性には、市場リスク、日本円と米ドルとその他外貨との為替レートの変動、その他情報通信関連事業を取巻く様々なリスク及び当社が継続して業務を展開する上で不可避の潜在的リスクである経済状況、サービスの成否、他社との競争状況などが含まれますが、これらに限定されるものではない不確実性が含まれていることをご留意ください。なお、本資料の著作権やその他本資料にかかる一切の権利は株式会社フォーサイドに属します。